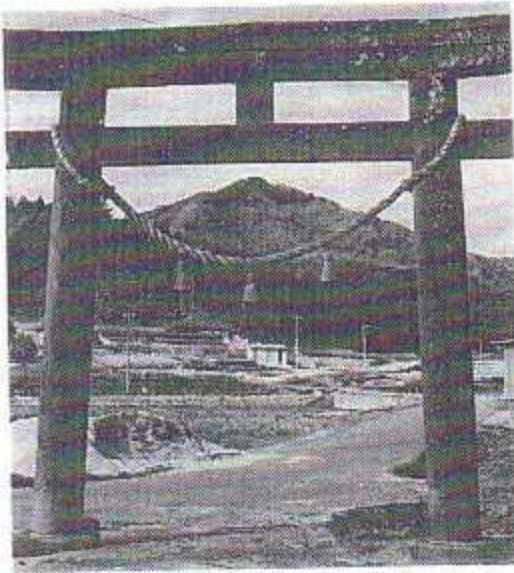


はじめに



高爪山（羽咋郡富来町）

もう八年ばかりも前のことになるだろうか。地名の響きにひかれて、能登半島外浦の秀峰、羽咋郡はくい高爪山たかつめやま（標高三四一メートル）の中腹にある神明原しめはらという集落を訪ねたことがある。そこには二所帯・三人のお年寄りが住んでいるだけだった。「いろんな行事がおこなわれなくなりますねエ」と話しかけた私に、「若いものはこんな山には帰ってきはせんしね」とあいづちをうつおばあさんの表情が、言葉とは違って屈託がなかった。

あのこだわりのなさはどこからくるのだろうか。諦観といつてしまうことができれば気が楽なのだが、山あいで光景が浮かんでくるとき、心が揺らぎ、落ち着かなくなってしまう。

高爪山は能登富士と呼ばれるくらいに秀麗な山である。山麓の大福寺だいふくじには大きな石の鳥居があり、近くの高爪神社あたりからうかがえる山容は神のおりきたる神奈備かんなびの山の典型を示している。稲藁わらを焼く煙が漂うとき、到底たどり着けない懐ふところの深い